

② 次の①～⑤の（ ）内に示された読みの中から訓読みを一つ選び、それぞれ番号で答えなさい。

- |   |         |          |         |         |
|---|---------|----------|---------|---------|
| ① | 1、楽（がく） | 2、帯（おび）  | 3、服（ふく） | 4、茶（ちや） |
| ② | 1、輪（わ）  | 2、派（は）   | 3、世（せ）  | 4、発（はつ） |
| ③ | 1、雑（ざつ） | 2、脈（みやく） | 3、宿（やど） | 4、別（べつ） |
| ④ | 1、室（むろ） | 2、域（いき）  | 3、食（じき） | 4、象（ぞう） |
| ⑤ | 1、歴（れき） | 2、億（おく）  | 3、巢（す）  | 4、冊（さつ） |

③ 次の①～⑤の各1～4の二字熟語は、「非」「未」「不」「無」のいずれかをつけて打ち消しの意味を表します。1～4の中に、一つだけ異なる打ち消しの文字がつくものがあります。その番号をそれぞれ答えなさい。

- |   |      |      |      |      |
|---|------|------|------|------|
| ① | 1、意識 | 2、意味 | 3、表情 | 4、適切 |
| ② | 1、自由 | 2、売品 | 3、公式 | 4、加熱 |
| ③ | 1、安定 | 2、経験 | 3、都合 | 4、満足 |
| ④ | 1、完成 | 2、開発 | 3、登録 | 4、農薬 |
| ⑤ | 1、健康 | 2、始末 | 3、記名 | 4、作法 |

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。（字数制限については、句読点・記号も一字と数えます。）

「銀座でおいしいハチミツが本当に採れたら、おもしろそうだよね。うちのビルの屋上を力<sup>①</sup>してあげてもいいかも…」と私。  
 「そのハチミツで何か食品をつくって、銀座に来て食べてもらいたい。銀座で地産地消<sup>②</sup>。もし実現したらこれはすごいことだよ」と友人の高安和夫氏。

私たちのちよつとした好奇心<sup>③</sup>と遊び心を裏切るかのように、やって来た養蜂家の藤原<sup>④</sup>さんは、次のように言ったのです。

「田中さん高安さん。お二人とも生き物を飼うのですから、途<sup>⑤</sup>中でやめたなんて言わないで、しっかり学んでくださいね！」  
 思いもかけない言葉。まさに④が豆鉄砲<sup>⑥</sup>をくらったかのように、しばらくきよとんとして、

「え？ 何で？ 私たちがミツバチを飼う？ 飼うのは養蜂家のあなたでしよう…」  
 これがすべてのはじまり。これからはじまるさわぎの序章でした。

銀座の空をミツバチが舞いはじめてから四年目の春をむかえます。

二〇〇六年三月二十八日。

三箱の西洋ミツバチが沖おきなわ 縄なわからやつてきました。藤原さんの指導の下、それぞれの巣箱のなかの女王バチの産さんらん 卵じようきようの状 況や巣全体の病気になる健康状態をチェックしてから入口の巣そうもん 門を開けました。小一時間してからどれどれと見に行くと、すでにたくさんのミツバチたちが、後ろ足に花粉団子をつけてもどつてきていました。

⑤これが最初※2に銀座の周辺の花蜜みつを収集し花粉を集めてもどつてきたシーンです。同時にミツバチたちが銀座のビルの屋上をすみかと認めてくれたことを確かくにん 認まことできたシーンでもあります。

読者のみなさんは、イ どうして銀座のような、自然環かんきよう 境とは正反對の繁華街で、ミツバチが生きられるのかとお思いでしょう。ロ おいしいハチミツ、一級品のハチミツが採れるなんて、信じられないと疑問に思われるでしょう。当然だと思えます。私自身もそうでしたから。

本来、ミツバチが住んでいるはずの山は、奥おくやま 山まで植林されたスギやヒノキにおおわれ、ミツバチだけでなく多くの動物が生きにくくなっています。里はもつとギビギビしい。田園風景のなかでミツバチが楽しそうに飛んでいる姿を想像していましたが、農薬を使わざるを得ない現代の農業は、いわゆる環境指標生物であるミツバチには過酷かこくな世界です。ハ、少量でも農薬に被曝※4すれば、ミツバチは二 巣箱のなかに入ろうとはしませ

ん。※5 帰巣本能のあるミツバチは巣箱までもどつてはきますが、なかにはもう入ろうとはせず、万が一まちがって入ろうとしても門番のミツバチが入れてはくれません。巣箱のなかでは子育て中であり、被曝したミツバチは自ら排はいじよ 除される道を選ぶしかないので。ある日とつぜん、無数のミツバチたちが巣箱の前でもがき苦しみながら死んでいくのです。

こうした姿を見せられる養蜂家がつらく悲しいのは言うまでもありません。ならば、農家に「農薬をまかないで」などとさえいって思ふかもしれませんが、弱い立場のニホンの養蜂家は、そんなことは言えません。「そっちのハチこそ来なければいいではないか、あっちへ行け」などと言われ※6てしまうのがオチ。多くの養蜂家は、だまって巣箱の巣門を閉じて移動するしかないのです。

ところで、ハチミツの味のちがいをご存じですか。

たとえば春先のソメイヨシノのハチミツは、桜の花の香りそのものではなく、⑥それを凝ぎようしゆく 縮したような強い香かおりがする、サラッとしたハチミツです。

ハチミツは「あまい」という認にんしき 識しかないのが一般いつぱんてき 的てきでしょう。日本の養蜂は砂糖※6の代 替か品ひんとしてのハチミツを採るために行われていたという歴史があるので、それも仕方ないのですが。しかし、ドイツ、フランスなどのヨーロッパのハチミツ先進国ではちがいます。味はもちろん、

香り、風味、糖度などによって、どんな料理に合うかなどが真剣に論じられたりもします。

ドイツでは栗のハチミツは、その癖のあるビターな味わいが逆に珍重されています。ブルーチーズにかけ、発酵度の高い赤ワインと一緒に食すると最高のマリアージュ(融合)になると言われます。個性のあるもの同士でその強い癖を消し合うのでしょね。同様に癖が強く、

日本では人気のないソバのハチミツは、フランスではジンジャーブレッドというお菓子作りに力かせない材料として高い人気をほこるそうです。それはともかく、二〇〇六年の春、沖縄からやってきた三箱のミツバチは、今が盛りのソメイヨシノの蜜をせっせと集めはじめていました。はじめての採蜜作業の日、藤原さんにすすめられるままに、直接、巣からハチミツをなめてみたのです。

シークワサーの香りと、桜の香りが鼻腔の奥を刺激したあの瞬間。私はハチミツの魅力に取り付かれてしまったのです。ミツバチたちが沖縄ではシークワサーの花蜜を採っていたことが瞬間的にわかりました。同時に、ソメイヨシノの香りもわかりました。ハチミツが花の種類によって、明らかにちがうことを確認した瞬間です。

次の週、シークワサーの蜜はしっかりとしばったために純粋なソメイヨシノのハチミツになったなあと思ったら、翌週は少し油っぽい菜の花に。それが終わると今度はユリノキのハチミツになりました。

こうして毎週味や色、糖度、花の香りが劇的に変化します。まさに銀座の周りの環境を感じ、変化を感じる瞬間です。毎週採蜜をすることで毎年のサイクルから銀座周辺の環境がわかってきました。そして、ハチミツの味は、銀座の「今の環境」そのものを味わっていると気付いた時も興奮しました。

たくさんの花蜜が採れるユリノキが入ってくると採蜜作業も大いそがしとなります。この花は、一つの花を何びきものミツバチが同時に、しかも何度か蜜をすってもまだ大丈夫というほどの花蜜が出るからです。レンゲや菜の花などでは一匹のミツバチが花から花へと蜜を集め、ようやく胃がいっぱいになるのですが、ユリノキだけはまったく別物。とたんに巣箱が上質のハチミツで充満し、週一回では間に合わず、週に二回の採蜜をしなければあふれてしまいます。

実は、このユリノキの存在が、銀座ミツバチプロジェクトのはじまるきっかけだったようです。

八年ほど前、藤原さんが皇居周辺を歩いていたとき、たまたま満開のユリノキの花を見つけたのだそうです。内堀通りに立ち並ぶユリノキは、日比谷公園から国立劇場まで、ぐるりと皇居外周を囲みます。国内にこれだけ多くの立派なユリノキの街路樹はそうそうあるものではありません。圧巻のユリノキの街路樹に、すぐさまこの周辺での養蜂を決意。場所を探したそうです。そして、永田町のある政党のビルの屋上で、藤原さんは都心での養蜂を開始しました。もし、それがなければ、銀座ミツバチプロジェクトはありえなかったのですから、ユリノキは銀座ミツバチプロジェクトの⑩ かもしれません。

ミツバチは一〇度以下では収蜜活動をテイクします。体温で巣内を必死に温めながら寒い冬を何とか乗りこえるのです。そして春、一一度以上の

暖かな日差しの中、私たちの巣箱のある銀座周辺でもたくさんソメイヨシノがいつせいに花を付けます。アスファルトにおおわれた都会ではかいざい在する昆虫こんちゅうが少ないので、「銀ばち」たちにとってまさに天国。寒い冬を何とか生きぬき、満開にさいたソメイヨシノの花の中に向かうとき、銀ばちたちにはまさに天国の入口にさしかかったと感ずる瞬間でしょう。

一生の間に一匹の集めてくる蜜はせいぜいティースプーンで半分くらい。ハチミツを食することはミツバチの命を⑩いただいていることなど感ずずにはいられません。

(田中淳夫『銀座ミツバチ物語』 設問の関係上、表記を改めている)

※1 養蜂家 ハチミツを採取するために、ミツバチを飼育する仕事をする人。

※2 銀ばち 「銀座でハチミツを作ろう」というアイデアによって、筆者を中心として「銀座ミツバチプロジェクト」という企画が立てられた。「銀ばち」は銀座に飛んでいるミツバチを指す。

※3 環境指標生物 生息できる環境条件が限られている生物。その生物が生息していることが一定の環境のめやすになる。

※4 被曝 放射能などの危険物質にさらされること。

※5 帰巢本能 動物が一定のすみ場所や巣などから離れても、再びそこへもどってくる本能、能力。

※6 代替品 かわりの品。

※7 ビターな 苦い。

※8 融合 とけあうこと。とけあって一つのものになること。

※9 蜜胃 ミツバチの体内で、一時的に蜜をためる場所。

問一、~~~~線部⑦⑧のカタカナを漢字に直しなさい。

問二、——線部①「地産地消」とはどういう意味ですか。次の【 】内に書かれた説明文の空らんaくcに当てはまる漢字一字を入れ、文を完成させなさい。なお、【b産】と【消c】は対義語の関係にあります。

【そのa地**で**b産したものを、そのa地**で**消cすること。】

問三、——線部②「ちよつとした好奇心と遊び心」とありますが、具体的にどのような思いですか。「く」という思い」に続くように、本文中から二か所探し、それぞれ二十五字以上三十字以内でぬき出し、その始めと終わりの五字を答えなさい。

問四、——線部③「思いもかけない言葉」とありますが、なぜ「思いもかけない」のですか。その理由を次から選び、番号で答えなさい。

1、藤原さんをだますつもりで言った言葉を、藤原さんが真に受けてしまったから。

2、好奇心や遊び心で始めることなので、途中でやめてもよいと思っていたから。

3、部外者の藤原さんが今回のプロジェクトにかかわるとは思っていなかったから。

4、ミツバチを飼うのは専門家のすることだと思っていたから。

問五、——④にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

1、からす 2、すずめ 3、はと 4、つる

問六、——線部⑤「これ」とは何ですか。次から選び、番号で答えなさい。

1、銀座の空をミツバチが舞いはじめてからむかえた四年目の春

2、二〇〇六年三月二十八日

3、三箱の西洋ミツバチが沖繩からやってきた日

4、たくさんのミツバチたちが花粉団子をつけてもどってきたとき

問七、——イ く ニにあてはまる言葉を次から選び、それぞれ番号で答えなさい。

1、決して 2、たとえ 3、ましてや 4、そもそも

問八、——線部A「思われる」、B「おおわれ」、C「見せられる」、D「言われて」に使われている助動詞「れる」「られる」のうちで、一つだけ用いられている意味の異なるものを探し、記号で答えなさい。

問九、——線部⑥「私自身もそうでした」とありますが、どういうことですか。次の【 】内に書かれた説明文の空らんaくcに当てはまる言葉を本文中から探し、文を完成させなさい。ただし、aには三字、b・cには四字の言葉が入ります。また、本文中に漢字で書かれている言葉をひらがなに直すなどの変<sup>へんこう</sup>更を加えてはいけません。

【私自身も読者と同じく、なぜ（ a ）で（ b ）が生きられ、（ c ）が作れるのかと思っていたということ】

問十、——線部⑦「ソメイヨシノのハチミツ」とはどういうことですか。次から選び、番号で答えなさい。

1、ソメイヨシノの花びらをつめてできたハチミツ

2、ソメイヨシノの花びらがまぜてあるハチミツ

3、ソメイヨシノの花蜜からできているハチミツ

4、ソメイヨシノの樹液からできているハチミツ

問十一、——線部⑧「それ」とは何ですか。本文中から探し、十字以内で答えなさい。

問十二、——線部⑨「ヨーロッパのハチミツ先進国ではちがいます」とありますが、日本のどのような事態がヨーロッパとちがうということですか。

「くであるという事態」に続くように、本文中から二十四字で探し、その始めと終わりの五字を答えなさい。

問十三、——線部⑩「逆に珍重されています」とありますが、筆者はどのようなことを説明したいのでしょうか。次から選び、番号で答えなさい。

1、ヨーロッパでは栗はめずらしい食べ物なので、まして栗でできているハチミツなどはもつとめずらしがられるということ。

2、日本ではあまくないハチミツは人気がないのに、ヨーロッパではその癖のある特とくしゅ殊な風味にこそ価値があると思われているということ。

3、日本ではあまくない栗のハチミツなどだれも見向きもしないが、ヨーロッパではあまいハチミツにはだれも見向きもしないという国民性が興味深いということ。

4、あまくない栗のハチミツなどに興味を示さない日本人の味覚と全く異なり、それを好むドイツ人の味覚はめずらしいということ。

問十四、——線部⑪「個性のあるもの同士」とは何を指しますか。十五字以上二十字以内で説明しなさい。

問十五、——線部⑫「私はハチミツの魅力に取り付かれてしまったのです」とありますが、具体的にどういうことに魅力を感じたのですか。「く」ということ」に続くように、本文中から二十一字で探し、始めと終わりの五字を答えなさい。

問十六、——線部⑬「毎週味や色、糖度、花の香りが劇的に変化します」とありますが、何によって変化するのですか。次から選び、番号で答えなさい。

1、ミツバチが収蜜する花の種類によって

2、収蜜するミツバチの種類によって

3、収蜜するミツバチの体調によって

4、花から出る蜜の量によって

問十七、——線部⑭「銀座の『今の環境』そのものを味わっている」とありますが、どういふことですか。次から選び、番号で答えなさい。

1、「銀座が社会的にいかに重要な繁華街であるか」を身近に感じられるということ。

2、「銀座の周囲に現在どのような自然があるか」を身近に感じられるということ。

3、「銀座を現在取り巻いている大気がいかによごれているか」を身近に感じられるということ。

4、「銀座の周囲にどのようなミツバチがどれくらい飛んでいるか」を身近に感じられるということ。

問十八、——線部⑮「すぐさまこの周辺での養蜂を決意」とありますが、なぜですか。次から選び、番号で答えなさい。

1、ユリノキで作るハチミツがあったらおもしろいのではないかとふとひらめいたから。

2、銀座という大都会に近いこの周辺でハチミツを作れば、必ず売れると考えたから。

3、そもそもユリノキがめずらしいので、そこから採れるハチミツはもっとめずらしいと考えたから。

4、蜜がたくさん採れるユリノキがこの周辺には豊富で、ハチミツを作るには最適な環境だと思ったから。

問十九、——線部⑯「それ」とは何ですか。次から選び、番号で答えなさい。

1、藤原さんと庄巻のユリノキの街路樹との出会い

2、藤原さんが日比谷公園や国立劇場のある皇居周辺を歩いた経験

3、藤原さんの、永田町のとある政党のビルの、養蜂に適した屋上の発見

4、藤原さんと「養蜂」という仕事との出会い

問二十、⑰には「物事を最初に作り出したり始めた人」という意味の慣用句が入ります。漢字ひらがな混じりで四字で答えなさい。

問二十一、——線部⑱「介在」とは「両者の間に他の物がはさまっていること」という意味です。この場合、「他の物」とは何を指しますか。本文中

から五字以内で探し、答えなさい。

問二十二、——線部⑲「いただいている」とありますが、「いただく」はある言葉の敬語です。(1)何という言葉の敬語ですか。五字以内で答えなさい。

また、(2)敬語の種類は何ですか。次から選び、番号で答えなさい。

1、丁寧語 ていねいご 2、尊敬語 けいじんご 3、謙譲語 けんじょうご

問二十三、本文の内容として述べられていることを次から二つ選び、番号で答えなさい。

1、農薬のまかれない場所を選ばないと、養蜂という仕事はなりたたない。

2、結局、藤原さんは「銀座ミツバチプロジェクト」に協力しなかった。

3、ミツバチは気温一〇度以下の寒い時期になると活発に行動する。

- 4、ハチミツの味に対する好みは、国の風土や国民性によつて異なることがある。
- 5、たくさんの蜜が出るソメイヨシノがさく時期は、採蜜作業も通常よりいそがしくなる。
- 6、ミツバチは、農薬に被曝してしまつても、採つてきた蜜だけは確保するために巣の中に運ぶ。